



なんかあったのか？

あいつから
テレビ電話？

Pi

あちゃー
意外と混んでんな...

プーッ



おーっす♥
突然でワリイんだけどさ♥
今日からアタシ妹ちゃんの
肉便器
やることになったからさ♥

んで今から妹ちゃんの
友達も呼んで
乱交パーティー
すっから
しばらく時間つぶして来いよ♥

どおしてこうなった？

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

ただいまー

ヤッ

おかえりー

簡単なあらすじ

ゴッ
ゴッ

またお菓子ばかり
食べて…

だってお兄ちゃん
おそいんだもん

あれ？彼女さん？

ああ
偶々スーパーで会ってな
夕飯も一緒になってな

たゅん

ちーっす

たゅん

ったく…
それじゃあ
妹見ててくれるか？

はあ？
アタシ
ガキ
嫌いなんだけど

グ
グ
グ

ヤーン

ポロ

まあそういうなよ
んじゃ！

たるいんですけど



あ、アレ買い忘れた…
ちよつと悪いんだけど

えー!?
嫌だよ さみーし

「どう!?
これでもわたしさがキだっでいうの!?!
こたえてみてよ!」
「ふふッ!? やめっ、やめて♥
ちんぽの臭いであだまおかしくなりゆ♥」
「なにいつてんの?」
「おねえちゃんわたしのちんぽのにおいで
さつきからマンコいじりまくってんのに
自分で気づかないくらいイカれてるよ♥
もうシラフにはもどれない肉便器生活に
ようこそ♥♥
んで、わたしのちんぽは子供ちんぽかな?」

「じえんじえん違うっ♥
彼氏のちんぽより立派大人ちんぽです♥
だからアタシのマンコいじり止めてえ♥」
「でしよー♥」
「でもさつきも言っただけでもおねえちゃん
ふたなりちんぽ用オナホからもどれませーん♥
「いいやなんのい♥オナホからもどれませーん♥」
ちんぽスメルでのうみそとけてくう♥♥」

「うぎいいい!?」

「あれ?」

「血が出てるってことは処女だったの?」

「そんなわけッ!?!」

「だって初めては…あいつとおおほおお!」

「あー…可哀想な方のパターンね」

「かわい…そう…?」

「おねーちゃんみたいなおバサン世代は勘違いしてる人が多いって習ったけど」

「イマドキのしよじよそーしつって」

「ふたなりおんなのこの本物チンポが入るようになることを言うんだよ」

「男子のチンコもどきじゃ処女膜破っちゃうだけで生殖できなくて迷惑だからできるだけはじめはふたなりに頼むってがっこーで言ってたよ」

「そ、そんなにやじよーしき知らにやいいいい!」
「だ・か・ら・♥はじめてはおにーちゃんじゃなくてあたし♥」

「んおおおお♥♥♥」

「うそうそうそうそお♥♥♥」

「おほおおおおおおおお♥♥♥」

「わーい♥豪天妹デカマラ号で
お兄ちゃんの彼女のマンコトンネル開通だー♥」
「はぎい!? あぐっ♥」
「やべてえ♥まんこ突貫工事だめえ♥♥♥」
「えー? でもこんなキツキツの処女マンコじゃ
同級生に笑われちゃうよ♥」
「えいつえいつ♥えーいつ♥」



「あああああああッ♥♥♥
まんこ開通されるう♥♥
彼氏専用の一車線だったのにい♥♥♥
ふたなり女の子用の4車線に拡張されてる♥♥♥」
「やっぱり二本くらい入るようになるら事故も
少ないしいいよね♥」
「あっ♥あっ♥もうさっきから子宮と
衝突事故お♥♥
だめ♥だめ♥♥安全ピストンにしてえ♥♥♥」

「なにこれえ!?
おなかになんかびゆるびゆる
つまってくるう♥」
「これが本当の射精だよ♥」
「うそお!?全然ちがう♥」
「彼はスロイト4滴くらいなのになに
ねつとりしたスライムみたいの♥
ドボドボ出てきて止まらないの♥」

「これでも初めてだから
てがげんしてるんだからね♥」
「ごんなに射精されたらアタシの
卵子逃げられない♥」
「絶対つかまえてぎめんに
即レイプされて子供できる♥」
「大丈夫だよ♥」
「そんなに簡単にできないから♥
でもこれでわかったでしょ?」
「お兄ちゃんとかじゃ『できない』って♥」
「無理♥」
「あんな貧弱なちんぽと精子じゃ
子づくりむりい♥」
「無理無理無理い♥」

「すごい…♡
アタシのマンコってこんなに
広がるんだ♡」
「うん♡立派なガバガバユルユルの
真っ黒大人まんこになったね♡」
「なんか本当の意味で
女になれたって感じ…♡しあわせ…♡」

「そうだね！
これで赤ちゃんも作り放題だよ！」
「あか…ちゃん…？ ふふふッ♡」
「どうかしたの？」
「いや嬉しくてさ♡」
「アタシ子供つくっておかーさんにな
るの夢だったから♡」
「それならやっぱりお兄ちゃんじゃなくて
わたしとHできてよかったね♡」
「うん♡本物とできてうれしい♡」

「じゃあお兄ちゃんと別れて
わたしのオナホにでもなる？」
「…うん♡なる♡♡」
「それでさっきみたいは無責任射精で
妊娠して♡子育てしながら三人目、三人目
いっっぱいつくりたいなッ♡♡」



「うわぁチンポにラブちゅっちゅなんて
おにいちゃんのことってたどおり
おねえちゃん結構恋人に尽くすタイプ？」
「ッチゅ♡ん♡ん♡そうなの♡チゅっ♡
アタシ好きになっただら夢中になっちゃって♡
チゅ♡
今は妹ちゃんのチンポの彼女だからあ♡♡
こうして♡ん♡チゅっ♡
あいじょ♡ひょ♡げん♡♡」
「うふふ♡『また』わたしのちんぽの彼女
できちゃった♡
ちよつと友達に自慢したいから呼んでいい？」
「ん♡は？かしこいけど…いいよ♡
妹ちゃんのお友達に新しいチンポケースって
紹介してもらおうの…
妹ちゃんのモノって感じでアタシ嬉しいかも♡」

「やったー！
あ、その前に買い物行ったお兄ちゃんに
もうおにいちゃんのちんちん無理だからって
言っといてね♡」
「ああ…忘れてた♡
もう妹ちゃんのモノっていつとかなないとね♡」